

＜施設全体の評価＞ ①尾上分庁舎活用 基本ポリシー及びコンセプトを理解し、複合施設としての交流や相乗効果による利用価値創造について工夫された提案がされているか。

～全ての世代が気軽に利用し共存できる場所、それを地元ならではの視点でかたちにしていきます～

■平川市に古くから残る原風景をヒントに計画をします

平川市に古くから根付く「蔵」と「つぼ」をヒントに、多様な活動を受け止める自由でワクワクする空間を提案します。  
ここでいう「クラ」は食やクラフトなど専門領域が蓄積した空間として、利用者のリクエストに応える機能や、新たに事業にチャレンジしたいスタートアップの人のための場所です。「ツボ」は「クラ」のまわりの書架や閲覧カウンター、自由に使えるミーティングテーブルなどが並ぶ空間で構成され、人と人の出会いや、新しい発想を生むための場所として計画しています。

■尾上地区に古くから残る農家の蔵と庭園

平川市には現在、歴史の営みが宿る約330棟もの農家蔵が現存しています。農作物の貯蔵や家宝を収めるために使用され、「蔵を建てたら一人前」と言われるほど、財力のアピールとなっていました。わざわざ人目につく道路沿いに蔵が多く建てられたのは、その名残からです。また、昭和30年代後半、尾上地区の農家の人は、厳しい農作業の束の間の憩いの場として自宅の敷地内に庭園（つぼ）を作りました。現代でも当時の美しく、壮観な佇まいの「つぼ」は残り続け、農家のオアシスとして存在しています。



■現代の「クラ」と「ツボ」がつくる多様性

- 「蔵」→「クラ：専門領域が蓄積した空間」
  - 新しい情報や知識に出会う。
  - 新しいチャレンジに出会う。
  - ワクワクする体験をする。
- 「庭園」→「ツボ：自由に利用可能な市民の憩いの場」
  - みんなで集まっておしゃべり。
  - 1時間だけ勉強していこう。

現代の「クラ」と「ツボ」が平面的に混在することで、多様な関係性と居場所をつくるのが可能です。



1 暮らしに寄り添う、新しい図書館のカたちについて

現代社会において図書館に求められるカたちは多様です。静かな読書空間や学習空間といったこれまでの図書館像が求められる一方で、飲食や交流をしながら本のある空間を楽しむ図書館や、コワーキングやインターネット利用など、より幅広い機能も求められています。

1階では書架の高さを抑えて視線の通りがよい広々とした開架とする一方、書架の間にテーマを設けた「クラ」を設置してテーマ配架やチャレンジショップとの連携がある賑やかな空間とします。近接するカフェでコーヒーを買って飲みながら読書を楽しんだり、平川市庁舎の「ひらかわらうんじ」のような広々とした空間にミーティングテーブルがある自由空間です。市民の幅広い利用目的に応えるために、静かに読書や学習するためのサイレントルームを3階議場跡を活用して整備します。ここは企画に応じて上映会や講演会など様々な用途に使える空間とします。



2 ひと・もの・ことが交差する、ワクワクの時間について

自由な発想で企画するイベントやプログラムと、それを実現する多様なおおらかな空間をつくります。各所に配置される「クラ」はシェアキッチンなど専門性の高いものと雑貨販売などの汎用性のあるものを設定し、時間入れ替えや季節入れ替えなどイベントやプログラムに合わせた運用を行うことができます。  
屋外でのイベント開催が可能な「おのえひろば」は子どもの遊び場としての利用に加えて、キッチンカーの寄付きや平川サガリのBBQなど食にまつわるイベント、クラフト作家さんを集めたマルシェ、図書館と連動した屋外読書イベントなど様々な利用が可能です。

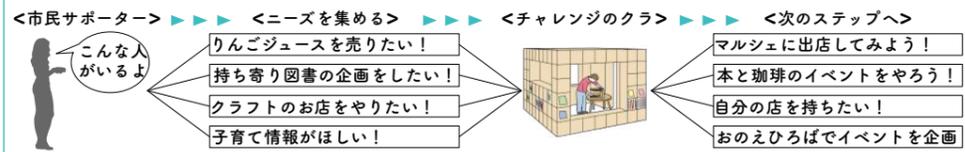


3 未来につなげる、チャレンジの場について

平川市周辺には小さな規模でクラフトや食などものづくりをしている作家や、まだ見ぬこれからの作家がたくさんいます。チャレンジのクラでは、月貸し・時間貸し・部屋貸し・棚貸しなど多様で柔軟な形態のリーシングで支援を行い、彼らの次のステップへとつなげます。

多様なニーズが集まる図書館や子育て支援の分野では、地域で先行して活動している人材（読み聞かせや遊び場づくりなど）を中心にニーズを集め市民サポーターとともに柔軟な企画や運営を進め、地域のみならず図書館と子育てを支え合う仕組みづくりを行います。

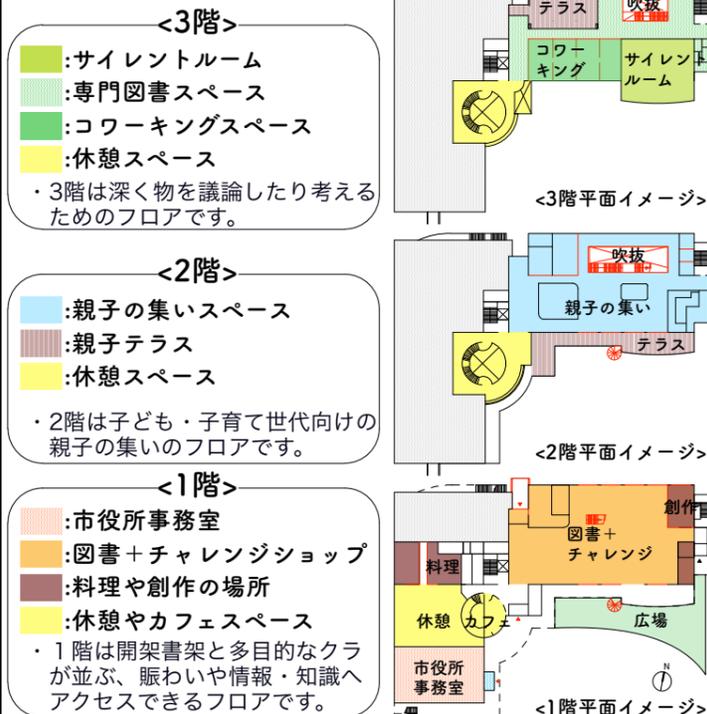
建材には可能なかぎり特殊なものを避けて汎用品を採用し、更新時の負担が少なくなるように配慮します。機能更新される空調設備には高効率設備を積極的に導入する他、LED照明や節水型トイレなど維持管理コストを抑えながら環境への配慮が可能な設備計画とします。



②施設内における配置及びフロア構成、各機能のゾーニングについて工夫されているか。

■人と人の交流と創発を生むゾーニング

階層があがるごとに賑わいが生みにくくなる難しさを解消する空間操作をします。吹き抜けを設けることで断面的なつながりや一体感を生み出します。



■多様なニーズに応える開かれた場づくり

- 誰でも簡単に情報に触れられるように図書館の貴重資料などをデジタルアーカイブ化しオープンデータ化していく仕組みを考えます。
- 多言語対応など文化・情報面でのバリアフリーの実施。自動音声システムや、デジタルサイネージ式インターフォン等のICT化されたユニバーサルデザインの導入を検討します。

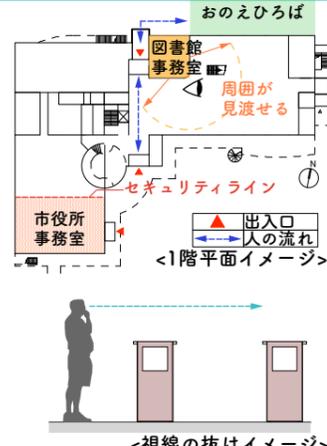
■誰にでも優しいバリアフリーな施設

- 高齢者への配慮**
- 1階から3階まで段差のない大きなワンルームの計画とします。
  - 緩やかな階段とし、全ての床を滑りにくい素材で仕上げます。
  - 休憩や読書のためのベンチ、手摺りをフロア毎に適切に配置します。
  - 市役所事務室は担当課が分かりやすいよう大きなサインで誘導します。
- 妊婦さんや子育て世代に優しい環境づくり**
- 授乳やおむつ交換ができる部屋を各フロアに配置します。
  - 外部空間や階段部分には落下防止対策を施します。
  - 必要に応じて、現在のトイレの和式便所を洋式便所に変更します。
- 車椅子利用者への配慮**
- 建物にすぐ入れる位置に車椅子用の駐車スペースを確保します。
  - 書架の間隔を広くし、ゆったりとした通路幅を確保します。
  - 本に手が届きやすいように、書架の高さは1200mm程度とします。
- 職員やその他の人への配慮**
- 快適な読書環境のためタスクアンビエント照明を基本とした計画とします。
  - 視線の抜ける明るい事務室とし、職員の労働環境にも配慮します。

④利用者やスタッフ動線及び視界について

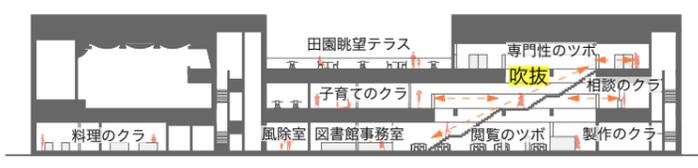
■利用者の欲しいところに手が届くプランニング

- 利用者、管理者両方に使いやすく明快な機能配置とするため、1階南側に庁舎機能を置くことで夜間休日のセキュリティラインを確保します。また新たに1階北側に出入口を設け「おのえひろば」との連携を図ります。
- 図書館の開架エリアは書架の高さを下げ視線を通すことで利用者の多目的な交流を促し、管理の利便性を高めるとするプランニングとします。



■断面的な繋がりを生む吹き抜け空間

- 吹き抜けを新しく設けることで、断面的に空間をつなげます。1階から3階まで緩やかにつながりながら、連続することで利用者の各階までの動線が明快になると共に、空間的な広がりを感じることが出来ます。



⑤自然を活かした平川市のまちづくりと調和し生涯学習センター及び尾上図書館の利用と連携する提案について

■尾上地区のエリア全体の楽しさを向上させていきます

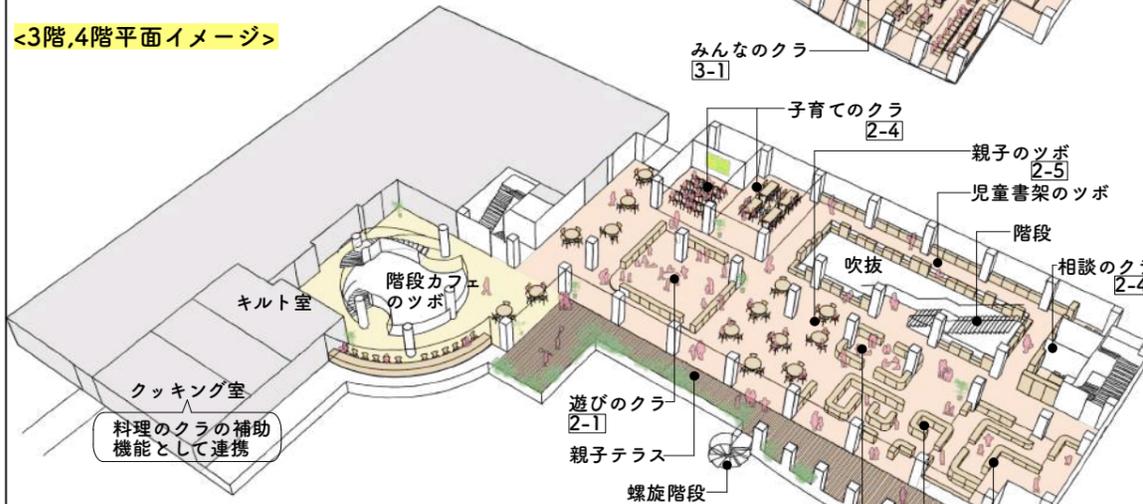
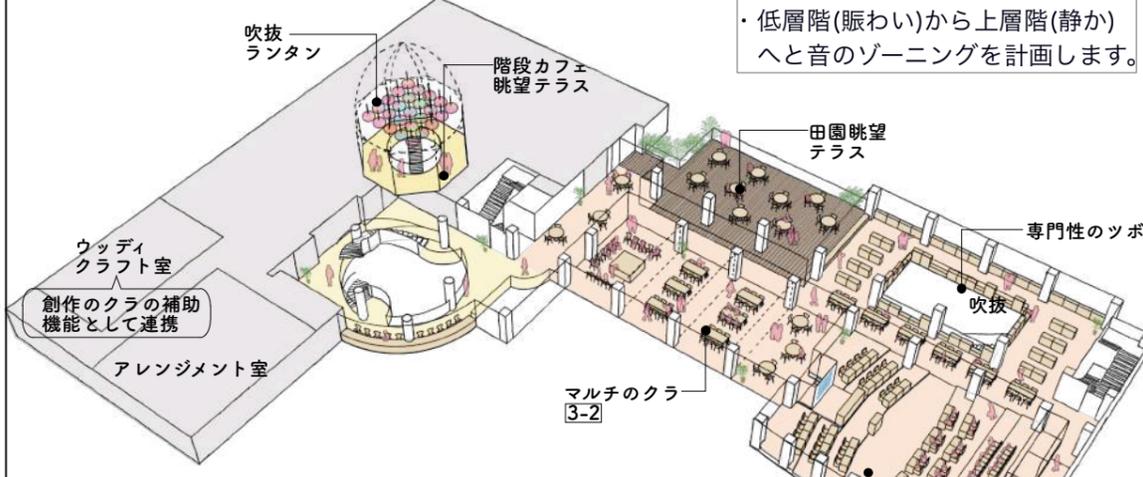
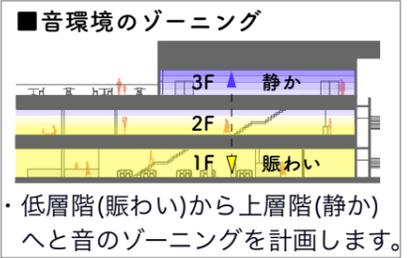
平川市の恵まれた自然や周辺の名所スポットなどと連携した企画を実現し、この場所を中心にエリア全体の楽しさを向上させていきます。屋外の大きな「おのえひろば」では、まちなかキャンプ、屋外でのクラフトマルシェや平川サガリを使ったBBQなど、すでにコンテンツとして定着しつつあるものをサポートしより幅広い市民向けのイベントとして開催します。また、ウッドクラフト室（提案対象外）と連携して施設サインづくりWSを行うなど、クッキング室や多目的ホールを含む既存機能を使ったおす連携プログラムの企画と実施を行います。



# 「クラ」と「ツボ」の関係がつくる、全ての世代が気軽に利用し、共存できる居場所

＜施設内の各設備についての評価＞①尾上分庁舎活用 基本ポリシー及びコンセプトを理解し、それらを実現できる提案

私たちは尾上地区のもつ多様な環境や歴史、人、モノ、コトそのものが空間に表出する姿を提案します。この場所で活動する市民の姿を、現代の「クラ」と「ツボ」で受け入れ、その多様性によってこの施設が市民の交流の中心となり、未来まで継承していく姿を目指します。



②新しい「憩い・遊び・学び」の場所として、市民の暮らしを充実させられるような新しい尾上図書館の提案について

<p>■知識のクラ 1-1</p> <p>農業ライブラリー</p> <p>知識のクラは、尾上地区の歴史や郷土、農業などの専門的な情報を地域の貴重な資源と捉え、誰でもアクセスできる情報の入口とします。情報をデジタル（ウェブサイト）とアナログ（実物展示）によるハイブリッドな空間として実現します。</p>	<p>■創作のクラ 1-2</p> <p>レーザーカッターや3Dプリンターなど最新の機器で自分自身のアイデアを形にする場所です。機器の使い方も講習会を設けることで、1人でも使えるようになります。3階のウッディクラフト室と連携しながら活用します。</p>	<p>■憩いのツボ 1-3</p> <p>憩いのツボは、世代を問わずに誰でも集まれる場所です。尾上総合支所へ立ち寄ったついでに、コーヒーを買って休憩したり、簡単な打ち合わせなどに利用できるコーナーです。また、地元ならではのディープな観光情報コーナーを設けます。</p>	<p>■閲覧のツボ 1-4</p> <p>閲覧のツボは、雑談も可能な活動的な場所です。電源とwifiを完備し、読書や軽作業などができるようにします。騒がしさを許容する空間とすることで、様々な人が集まり出会う情報交換が生まれる場所となります。</p>	<p>■防音のクラ 1-5</p> <p>防音のクラは、映像撮影や、飲食事業者の商品撮影スタジオとして利用できます。照明機材やスクリーンなどもレンタルができるようにします。また、軽音楽のバンド練習など大きな音も出せるような仕様として整備します。</p>	<p>■みんなのクラ 3-1</p> <p>みんなのクラは議場跡を活用した、1人で静かに読書や学習するためのサイレントルームです。元の空間を活かして、企画に応じて上映会や講演会、プラネタリウムなど様々な用途に使える空間にもなります。</p>	<p>■マルチのクラ 3-2</p> <p>マルチのクラはコワーキングオフィスやレンタルスペースとして利用できます。テレワークの方がドロップインで利用することが可能です。専門性が必要な問題が発生した際は、すぐに専門図書コーナー（専門性のツボ）で調べることが可能です。</p>
--	--	--	--	--	--	---

③飲食事業者によるチャレンジショップスペースについてコンセプトに沿った提案

<p>■階段カフェのツボ 1-6</p> <p>階段カフェの利用者を対象に、スタートアップ支援からシェアキッチン等の運営方法まで「おのえワクワク会議」を通してサポートします。</p>	<p>■チャレンジのクラ 1-7</p> <p>1階の各所に設けられたチャレンジのクラは、棚等で作り出店者の要望に対応できるようにします。可変性のあるクラとしてデザインし、組み合わせによって大きさが調整可能です。</p>	<p>■料理のクラ 1-8</p> <p>1階の料理のクラでは、クッキーの講習会や、料理教室などが開催され、これからチャレンジ出店する方がより美味しいものを提供できるようサポートします。</p>	<p>■食ラボとの連携</p> <p>「食ラボひらかわ」と連携して、食ラボで加工したものをチャレンジのクラで販売もできるような仕組みを考えます。また料理のクラで作れない加工品は食ラボの利用を促します。</p>	<p>■継続的なサポート</p> <p>チャレンジが成功し、自分の店を持ちたいと考える事業者が現れた際には、設計チームが共同し、空き家の改修相談、DIYのアドバイスなど継続的なサポートを行います。</p>	<p>■認知度アップのためにみんなで頑張ろう！</p> <p>出店者の認知度アップのためのSNS拡散や広報活動などを、「おのえワクワク会議」を通してサポートする仕組みを作ります。</p>	<p>■平川市で飲食やシールドル事業を行う水口清人さん</p> <p>平川市で先進的な取り組みをする経営者を、「おのえワクワク会議」のメンバーに加え、不安や悩みを共有してもらい、経営全般の相談ができる場を設けます。</p>
---	--	---	--	--	---	---

④子どもや親子が集える場所として子どもたちの発達・発達状況に応じて安全に遊べる空間の提案

<p>■遊びのクラ 2-1</p> <p>遊びのクラは子ども達が自由に走り回れる空間です。定期的に運動あそび教室、マタニティヨガ教室、読み聞かせ会なども開催します。自然素材で内部を仕上げ子どもの健やかな成長を促す空間にもなります。</p>	<p>■絵本のクラ 2-2</p> <p>絵本のクラは本棚で囲まれた空間です。子ども達が落ち着いて絵本を読める小さな場所や友達とコミュニケーションをとりながら本を読む少し大きな場所を設けます。大人が見守りやすいよう棚の高さを低く抑えます。</p>	<p>■アスレチックのツボ 2-3</p> <p>アスレチックのツボは遊具と書架スペースが一体化した空間です。本棚の迷路やネット遊具などがあり、子どもの好奇心や挑戦心を刺激するような大小さまざまなスペースと仕掛けを設けます。</p>	<p>■子育てのクラ 相談のクラ 2-4</p> <p>子育てのクラは離乳食教室、親子サロンや、パパ・ママスクールなどに利用できる個室です。相談のクラは、個別に相談心と子育ての悩みなどのお話ができるプライベートな空間です。</p>	<p>■親子のツボ 2-5</p> <p>親子のツボは子ども達を安心して見守りながら、保護者同士の交流ができる場所です。遊びのクラと絵本のクラの両方が見渡せるよう、椅子やテーブルを配置します。子どもとお絵描きや折り紙などの遊びも可能です。</p>	<p>■地元団体と連携</p> <p>平川市内で子ども遊び体験事業や、猿賀公園でのイベントなどの地域活性化活動を行っている「h&amp;fプラス」の皆さんと連携し、地域に住む子育て世代や子ども達の潜在的なニーズを掘り起こし、設計に反映します。</p>	<p>■関わってくれる地域の人の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもダンス教室 (Shoel先生)</li> <li>溶接体験 (長谷川鉄工)</li> <li>運動遊び (佐藤先生)</li> <li>クラフトWS (モルおじさん)</li> </ul> <p>平川市や周辺の地域で活躍する方達のサポートにより、学校ではできないワクワクする体験を提供します。親子で楽しく成長する機会を設けます。</p>
---	---	--	---	---	---	---

＜その他＞①持続可能な管理運営上の仕組みや地域コミュニティの視点などの提案

・「おのえワクワク会議」は施設活用の話し合いだけでなく、場所や仕組みづくりを通して、将来的に継続してまち育てに関わる人材を育てる拠点と考えています。地域の高校生や大学生を会議に加え、住んでワクワクする居場所を未来につないでいきます。

・SNSでの発信を積極的に行い、尾上地区を訪れる「きっかけづくり」をしていきます。尾上地区やこの施設での体験を通し、訪れた方に、さらに情報発信と拡散してもらうことで情報の「循環」が生まれ、各世代に認知してもらえる拠点の施設をつくります。

・平川市周辺の地域で、地域づくりやまち育て活動をしている施設と連携します。情報の交換や施設同士で連携したイベントなどを企画し、中南地域を中心に発信していきます。さらにこの施設から発信や活動を続け、将来的に青森県全体が活性化していくビジョンを描きます。



②外構空間について、施設部分の提案内容に合わせた有効かつ具体的な提案がされているか

・施設の北側に大きく設けた「おのえひろば」は子どもの自由な遊び場としての利用に加えて、様々な活動に活用できる受け皿のような空間です。

・「おのえひろば」に対し、広場に開けた大きな開口部を作ります。豊かな自然を見ながら読書や作業ができるようにし、1階の「閲覧のツボ」と連携し自由に行き来できるようにします。

・施設の南側のロータリーには「スケートボードのツボ」を設け、若者が健康的に体を動かせるような場所とします。

・施設のエンタランス部分には、この施設のシンボルとなるような象徴的なサインを設置し、訪れる人を迎える施設の顔として計画します。

おのえひろばイメージ

閲覧のツボと連携

スケボーのツボイメージ